

1993年7月1日

外洋スポーツフィッシングボートの本格派

PC-41SF

新 発 売

ヤマハ発動機株式会社では、充実した釣り機能と高度な外洋走航性、豊かな居住性をもつ大型スポーツフィッシングボート、『PC-41SF』を新たに開発しました。'93年9月1日より発売いたします。



ヤマハPC-41SF

< 東京店頭渡し希望小売価格 >

PC-41SF

63,654,000 円

- * エンジン (TAMD72 / 430 馬力) × 2 基付き
- * 沿海法定安全備品含む
- * 消費税別

< 販 売 計 画 隻 数 > 15 隻 / 年

ヤマハ発動機株式会社

本社広報室 ● 〒438 静岡県磐田市新貝2500
東京広報課 ● 〒104 東京都中央区銀座

TEL.0538 FAX.0538
TEL.03 FAX.03

< 商品の概要と市場背景 >

大漁主義の釣りを離れ、一定のルール^{*}に基づいて釣果と技を競い合うスポーツフィッシングが盛んになってきました。海の釣りでも釣りをスポーツとしてとらえるアングラ（釣り人）が増加し、ビルフィッシュトーナメント^{*}（カジキ釣り大会）が次々に開催されている状況です。

今回発売するニューモデル『PC-41SF』は、熱心なビルフィッシュアングラの要望に応じて企画されたピュア・スポーツフィッシング・モデルです。

『PC-41SF』の開発にあたっては十分なリサーチの期間をとり、高度な水準を要求するスポーツアングラも十分に満足する性能を追求しました。その過程では様々なデザインの試みを採用し、結果として、4件の実用新案が生まれています。

『PC-41SF』は、特にスピード、凌波性（乗り心地）、低速安定性、旋回性、後進性などの運動特性に優れ、釣り機能にも十分な配慮が加えられた、潮気あふれるタフなトーナメント指向の本格的なオフショア・フィッシングマシンです。

このモデルのプロトタイプ<マルジェ>は7月、8月に開催されるいくつかのビルフィッシュトーナメントに出場し、実践の場で総合的な性能を披露するキャンペーンを予定しています。

* ルール：IGFA（国際釣魚協会）ルールは、「より細い（弱い）糸でより大きな魚を釣るのが釣り人の技術である」という考え方を基本とし、魚とアングラのフェアな戦いを実践するために様々な規則を設けた釣りのルールで、世界各地のビルフィッシュトーナメントもIGFAルールに基づいて行われています。またIGFAはタグ&リリースを奨励し、生態系保存に積極的に取り組んでいます。

* トーナメント：日本で最も伝統あるビルフィッシュトーナメントは下田で行われる国際カジキ釣り大会（JIBT）で、今年で第15回を数え、海外からの参加チームも多く、近年は100隻を超えるボートが出場しています。また、近年、日本沿岸で開催されるビルフィッシュトーナメントは八重山、土佐、合歓、勝浦など10カ所を超えています。

< PC-41SF 主な特徴 >

外 観

・完璧なプロポーション、飽きのこないスタイル

走行性能と居住性そして釣り機能を高い次元で統合させ、本物を目指したスタイルは流行に左右されない、永く飽きのこないデザインです。機能的にも、船体幅を広めとし、キャビン内に余裕を持たせるとともに、安定性を向上させました。前部のフレアを大きくとり、スプレイをおさえ波シブキのかからない機能を高めました。デッキ上はフラットにし、デッキワークが安全にしやすい、かつ近年流行のキャストイングに便利ないようにしました。

・機能性とアメニティを両立させたフライングブリッジ

フライングブリッジの後部に操縦席を置き、ファイトするアフトデッキのアングラーと良好なコミュニケーションを確保。ヘルム前部にはゲストがリラックスして走行を楽しめるL型シートとクーラーボックスケース付きのテーブルを配しました。(イラストをご参照ください)

内 装

・男同士の釣行を快適に楽しむ

ボリュームある艇体のため、キャビン空間の余裕が十分あります。キャビン設備は、「男同士5人のアングラーが2泊3日の釣行に出て快適に過ごせること」を前提にレイアウトされています。バース(寝台)、バスルーム/トイレ、ギャレー(台所)、サロンがそろっているほか、食料、飲物、安全備品類がきっちり収納できるスペースを設けています。

・タックル類の収納スペースも十分に

サロンのシート下に5本のトローリングロッドを収納するスペースを設けるなど、道具類が多くなるビッグゲームの釣行に対応したレイアウトです。また、ダイネット横にはアクリルカバーのついた物入れを設けて、大切なルアーの保管に配慮を施しました。さらにオプションでは大型保冷库、強制循環イケス装置を用意しています。

性能上の特性と実用新案

・バツグンの加速性と効率的な船底

『PC-41SF』は加速の良さと低速安定性を両立させ、船底の抵抗を大幅に削減したため、スピードも約32ノットの高速を発揮します。

・実用新案 — 後進性能を向上

スポーツフィッシングの場面では、ボートの後進性能が重要になります。『PC-41SF』は艇尾に新しい形状と工夫を取り入れ、水流をスムーズにして、全速でも後進可能な性能を得ました。現在、以下のような実用新案を申請中です。

- ①艇尾両端の新形状：スムーズな後進を実現し、しかも前進時も性能が低下しない
- ②新形状のトランサムステップ：後進性能をさらに高める
- ③排気孔の新形状：船底の抵抗を軽減し、水の逆流も防ぐ
- ④フライングブリッジ風防の新形状：風防の上下にスキマを設けて風圧のハネ返りを防ぐ

開発責任者のコメント

数年前から設計室を中心に釣りのチームを組み、自分達の設計したボートに乗って、勝浦ビルフィッシュトーナメントやJ.I.B.T.に出場し、成果を上げてきました。また、トーナメントではアングラータちから貴重な情報が得られ、我々の大きな財産になりました。

この『PC-41SF』には、トーナメントに出場して得たノウハウを艇体の細部にわたってギッシリと詰め込みました。

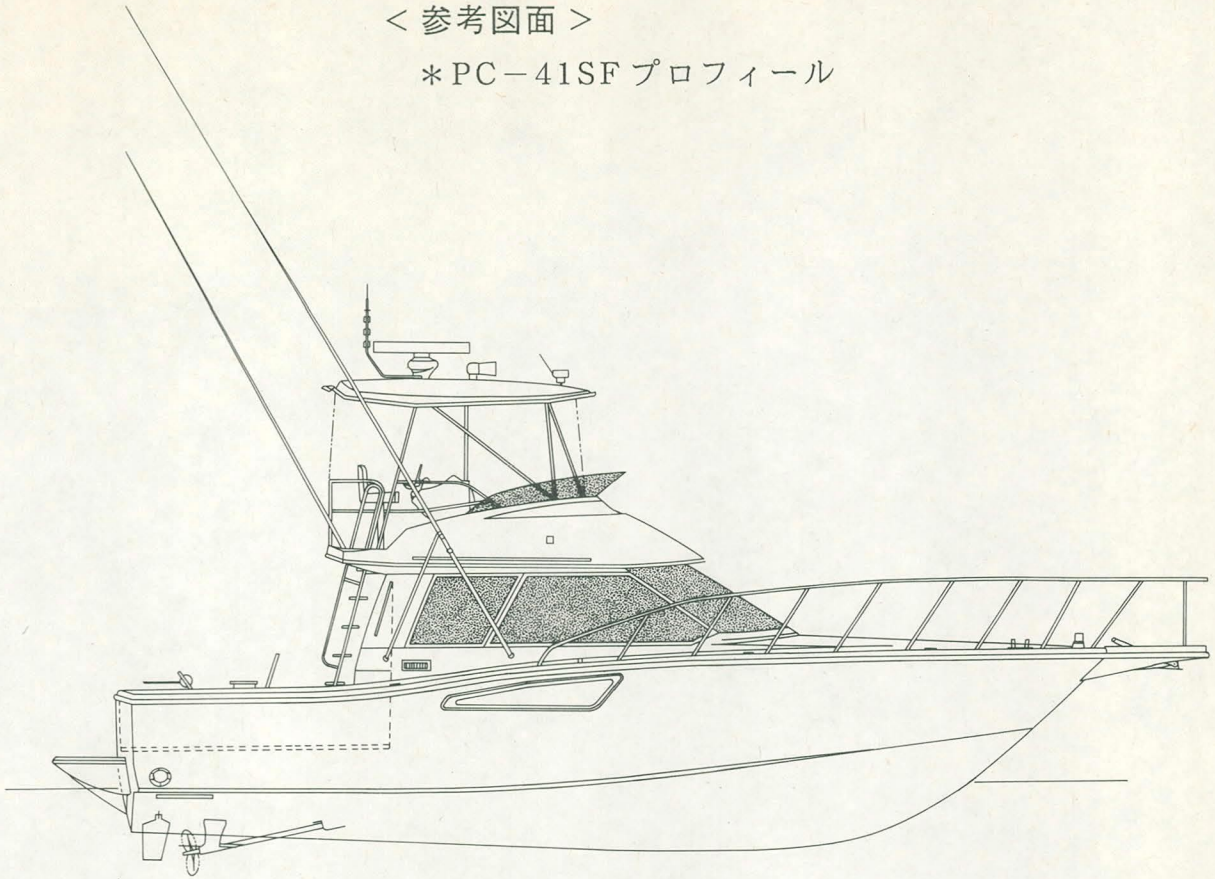
たとえば、釣りのベテランは「曳き波が小さく、航跡の泡がすぐ消える」のが“良いフネ”だといいます。開発にあたっては水槽テストを繰り返し、船体のカーブに工夫をこらして、苦心の末、そんな船型にたどりつきました。また、性能向上を追求した結果、4件の実用新案を申請することになりました。

我がフィッシングチームも『PC-41SF』とともに今年のビルフィッシュトーナメント2～3試合に出場する予定で、この艇の開発において我々の狙った性能が発揮されることを、釣果とともに今から楽しみにしています。

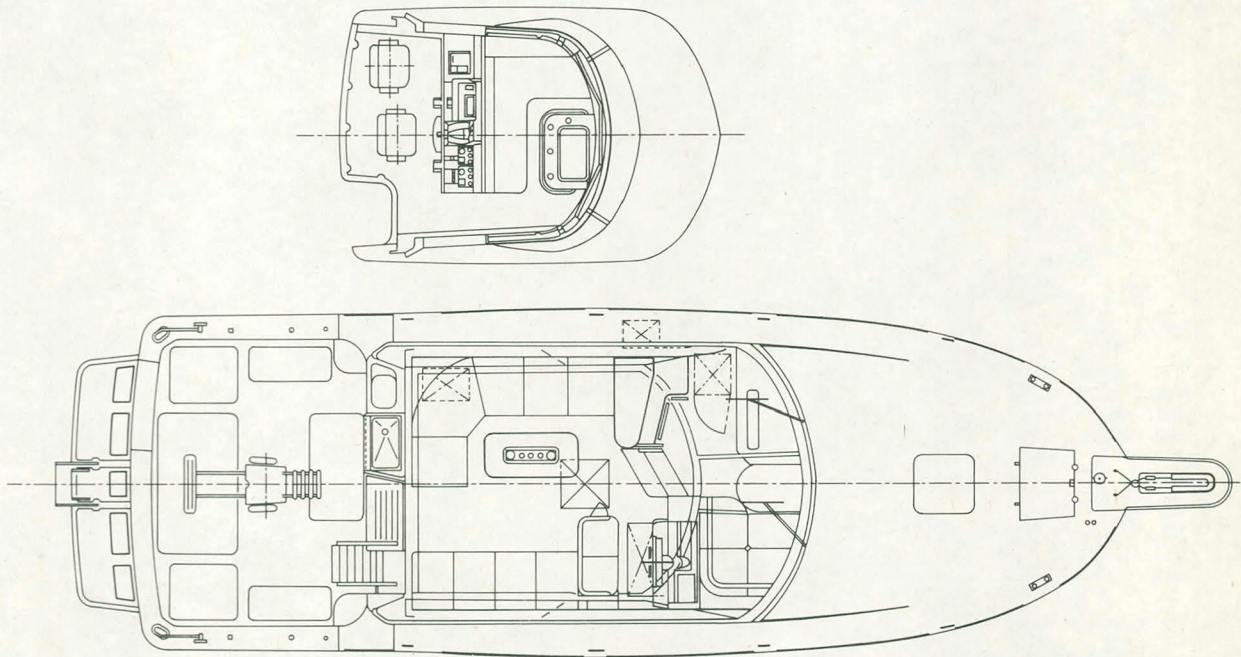
舟艇事業部 技術部第1プロジェクト
プロジェクトマネージャー 菅沢 実

< 参考図面 >

*PC-41SF プロフィール



*PC-41SF フライングブリッジ及びアッパーデッキプラン



< 主要諸元 >

全 長 : 12.50m (14.50m / バウスプリットおよび
トランサムステップを含む)

全 幅 : 4.15m

全 深 さ : 2.34m

搭載エンジン : TAMD72 (430馬力) × 2基

燃料タンク容量 : 650 ℓ × 2

清水タンク容量 : 300 ℓ

完 成 重 量 : 約10.2t

総 ト ン 数 : 16トン

航 行 区 域 : 沿海

定 員 : 15名

< カラーリング >

ハ ル (艇体) ピュアホワイト

デッキ ピュアホワイト + ダークブルーグレー

フライングブリッジ ピュアホワイト + スカイグレー

マーリンをめざして

— 『PC-41SF』開発記 —

ヤマハ発動機(株)マリン事業本部舟艇事業部商品企画課 伊熊孝雄

『PC-41SF』は、YAMAHA 38 MARLIN-SFの後継モデルとして、充実したスポーツフィッシング機能と豊かな居住性を高次元で両立させた、本格的スポーツフィッシングコンバーチブルモデルをコンセプトに企画し、開発にあたっては華美や虚飾を排した機能重視の本物指向と品質に対する割安感の2点を常に念頭においてすすめてまいりました。

従いまして本モデルは、アメリカンコンバーチブルの模倣ではなく、日本の海況や使用実態に適合し、日本のトップアングラーにも評価される品質を目指した一艇として完成したものと自負しております。

その基本性能については、SF-38の2段チェーン船型を発展させ、スピードと凌波性に優れた抜群の走行性能と低衝撃性、ドライネスの確保を実現しています。また、新設計のトランサム形状の採用による後進性能の大幅な向上も図っております。

スポーツフィッシング機能・装備には、当社開発チームのトローリング実践をはじめ、数多くのスポーツフィッシング・マニアに対するリサーチから得たノウハウが随所にもり込まれています。

内装は、ワイドな空間に多用したチーク材をFRPやファブリックと調和させ、豊富な収納スペースをも確保しています。

本体小売価格は6350万円(東京・阪神地区の艇体・エンジン価格)を予定していますが、これは商品力の向上に対し、価格上昇を極力抑えた価格としています。

なお、本文中でのご指摘につきましての当社の見解は、以下の通りです。

①ダイネットィのオープンバースのプライバシーについて

男同士のトローリングチームの雑魚寝レベルの宿泊バースとして考えています。

②ロッド収納スペースの通気について

釣り人の常識としてロッドは乾かしてから収納するものと考えています。

③キャビン内の通気について

キャビン内に強制換気措置を装備しています。

④アフトデッキの待機場所について

ユーザーの使用実態を見ても、待機場所についてはファイティングチェアをはじめサイドデッキへの昇降ステップの他、サロンやフライブリッジを利用しています。アフトデッキについては基本的にファイティング時の作業性を優先しています。

⑤サロン内のドライバーズシート高について

生産艇では5cm高くする予定で、これにより日本人の平均的な大人の90%がハンブ時でも前方が充分見通せます。

そして、生産艇はさらに完成度を高める為、舵板形状の変更、サイドウインドウ後方の塗り分けカラーの変更(スカイグレー→ダークブルーグレー)等を実施する予定です。

多くのスポーツフィッシング・マニアが『PC-41SF』にお乗りいただき、ビルフィッシュトーナメントで本モデルがマーリンを釣り上げて帰港する日を心待ちにしております。